

日本の高校生とインドネシアで過ごした夏

苑 克巖

今年三月、初めてインドネシアへ派遣の募集パンフレットを見た時に、自分は中国国籍だから日本の学生たちと一緒にいけるかどうかと心配しました。もしいけるならインドネシアの高校生たちと交流できるし、私にとって日本の学生と一緒に海外へ行く貴重な経験でもあると思って、すぐ応募しました。

市川市国際交流協会の太宰さんはいろいろな方に連絡してくれた。まず市川市は外国国籍の学生の派遣を認めてくれた。それから、メダン市も日本国籍ではない学生の受け入れを認めました。たくさんの方々の協力をいただいて、私は行くことが決まりました。オリエンテーションを一度も休まずに参加して、前回の先輩と、インドネシアの事に詳しい吉原さんの説明から、インドネシアは暑いからシャワーが水しか出ないし、トイレや食事などいろいろ不便なところもあるけれど、インドネシアの人達は性格が明るくて優しいから、一度行ってみたら好きになると知りました。

八月十五日、インドネシアに行って、一生の思い出を作ることができました。初めてモスクを見学した事、インドネシア独立記念日式典に参列した事、トバ湖へ観光しにいった事、またメダン市国際交流協会の学生たちとの出会い、これは全て派遣生に選ばれないと体験できないと思います。今回の派遣を通してあらためて、言葉が通じない気持ちを体験し、言語の大切さを実感しました。これから日本語の勉強にも英語の勉強にももっと力を注ぎたいです。

メダン市からバスで三時間ぐらい離れているところで、日本人オーナーが経営しているゴム農園とゴム工場を見学しました。会社のスタッフの話によると、東京都に匹敵する面積のゴム農園で、大量の原材料を収穫し、現地で何千人も人に仕事を提供しています。仕事は、日本に比べると給料が低いですが、現地の人たちにとって、大事な存在だと思います。このような日本にない資源と、現地の労働力を利用したビジネスは日本の会社にも、インドネシアの労働者にもお互いに有利だと思います。ちなみに、私たちはトバ湖で中国人オーナーが経営しているホテルに泊っていました。そのホテルはほとんど現地の作業員を雇って、インドネシアの観光資源を利用したビジネスです。そのホテルで NHK の国際放送をみました。取り上げていたのは日本の企業と中国の企業がアフリカで激しく競争している状況でした。今後、中国企業も日本企業もお互いの長所を参考にし、建設や経済が遅れている国と地域で良性競争をお祈りします。

メダン市にいる間、一番意外な事は中国語専門の森川総領事との出会いです。森川さんは中国の大学に留学し、外交官の仕事のため中国に何十年か住んでいました。森川さんは、若いう

ちに海外へ行って国と国の関係を客観的に見る事はとても重要だと述べました。中国語は中国でしか使われていないのではなくて、シンガポールでも通用するし、アメリカや他のいろんな国にも中国語を使える人が住んでいると述べました。故郷である中国ハルビン市の建物がロシア風でおしゃれな街だと誉めてくださったが、その例は私が生まれる二十年前の話でした。

将来、中国人のように中国語を話せる、中国人より中国のことに詳しい森川さんを目標にして、日本のことを深く理解して、日中友好の力になりたいです。

インドネシアでメダン市の学生たちと友達になり、いろいろな食べた事ない物を初めて食べ、たくさん思い出が作れました。その後、シンガポールも半日見学しました。シンガポールの経済はすごく発達し、東京より進んでいるところがあります。

インドネシアに行く前は、アメリカから市川市に来た派遣生の受け入れ活動も参加させてもらいました。この夏、様々な国の友達が出来、日本に来て一番楽しい夏でした。今後、中国からの派遣生の受け入れや中国へ派遣する活動を積極的に参加します。両国民の相互理解を願い、日本の良さを中国人に知らせ、中国の良さを日本人に発信したいと思います。